

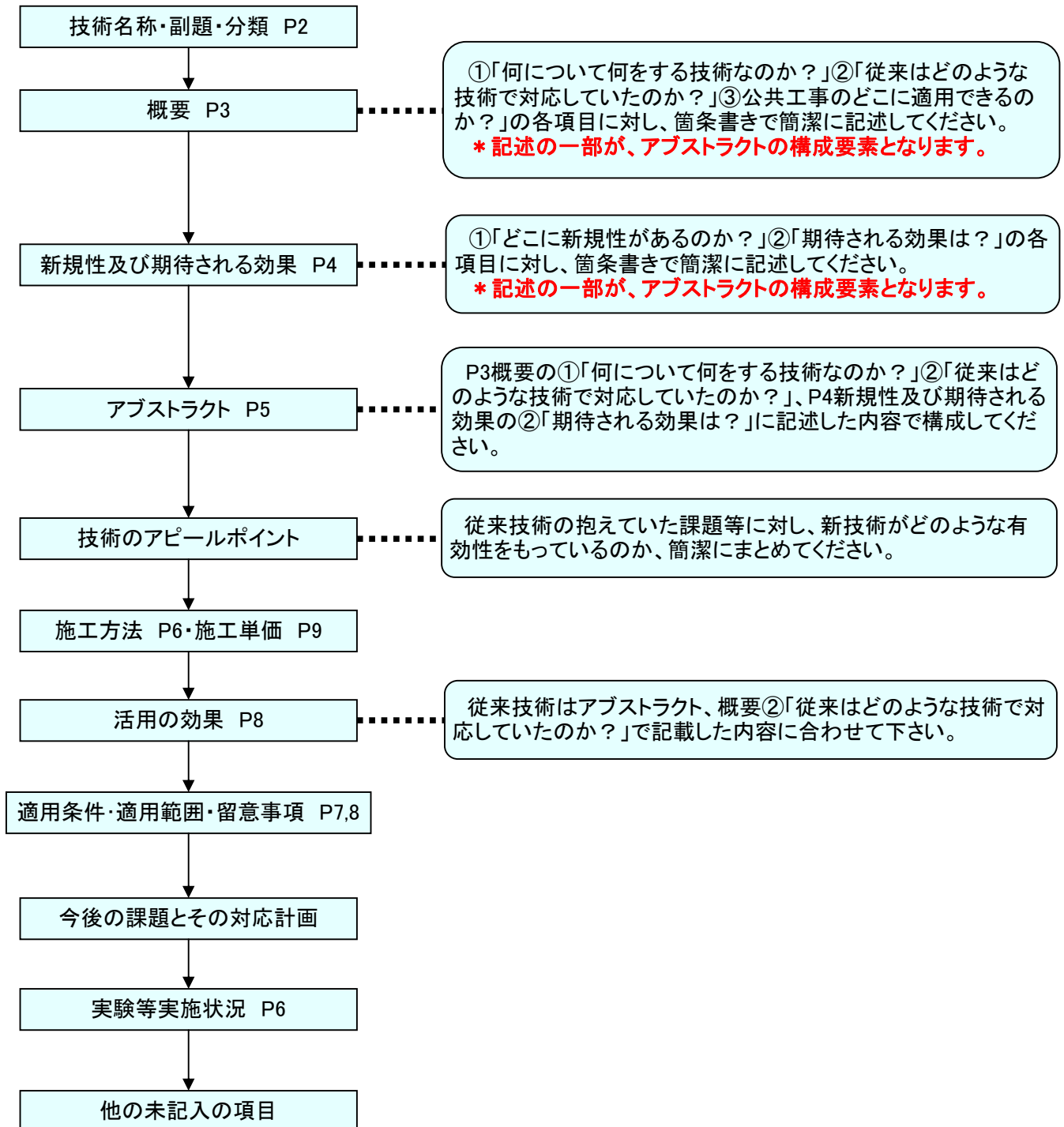
## 様式2の書き方のポイントについて

### 技術概要説明資料(様式2)の目的

開発目標や活用効果等の技術の特徴と共に、活用等における留意点を記載して下さい。

### ○書き進め方

様式2には様々な記入項目が用意されていますが、各項目はそれぞれが関連しているため下記の書き進め方に沿って記述して頂くと、書きやすいと思われます。



### ※文字の着色について

様式2にある代表的な項目について、シート別に書き方のポイントの説明を載せましたが、そこで着色されている文字等は、説明する上で分かり易く着色しているものです。

様式2を作成する際、例に挙げたような文字の着色は必要ありません。

技術名称 ○○○○工法

申請する新技術の名称をフルネームで記入してください。  
**技術名称は、様式1,3,4と統一されたものとします。**

(注)  
技術名称は基本的に変更できません。  
商標登録されていないか、既にNETISに登録されている技術名称と同一でないか確認してください。  
また、名称に「新」を付けたり、型番や会社名を入れしないでください。

副題 コンクリート建造物の○○○○工法

申請する新技術の用途等を明確にした「技術副題」を記入してください。

記載のポイントは以下のとおりです。  
・技術名だけでは不明なものを補完し、技術内容が十分把握できる副題。  
・特にその技術の「売り」になっている内容を記載した副題。

分類		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
	分類1	建築設備(機械)	給排水衛生設備工事		
	分類2				
	分類3				
	分類4				
	分類5				

分類1から分類5まで最大5分類までプルダウンから選定することができます。  
分類については、NETIS申請情報の「工種で検索」を参考に選択して下さい。  
**分類1には評価対象とする分類を選定してください。**  
分類は官側でチェックを行い、開発者に修正を願う場合があります。

概要

①何について何をやる技術なのか？

〇〇〇〇工法

②従来はどのような技術で対応していたのか？

△△工法

③公共工事のどこに適用できるのか？

・□□工事

このように箇条書きで簡潔に表現してください。  
出来るだけ従来使用している表現で、一言で表して下さい。

例

○ 深層混合処理工法  
厚層基材吹きつけによる法面安定工法 など

× **軽量盛土と再生木材による擁壁工法**で、**工期短縮・環境負荷軽減・コスト縮減に寄与**する事が出来る**画期的なもの**である。

新規性及び期待される効果の①に記述する内容です。

新規性及び期待される効果の②に記述する内容です。

このような主観的な表現は、概要の説明には不用です。

また、**補足説明が必要な場合**などについては、③まで書き終えてから、④・その他・追記・詳細 等で見出しを作成していただき、そこに文字数の許す範囲で記述して下さい。

このように箇条書きで簡潔に表現してください。

ここで記述する従来技術(複数在る場合、もっとも標準的と思われるもの)は、下記で記載した箇所に記述する従来技術と**同一**とします。  
(従来技術とは、申請技術の比較対象となる技術で、評価する際の比較基準となります。なお、従来技術は過去に自社で開発されたもの、自他社においてNETISに登録されている技術は不可とし、工法・機械等については、「国土交通省土木工事標準積算基準」、「港湾土木請負工事積算基準」等に記載されている工法から選定して下さい。材料等については、一般的に使用されているものから選定して下さい。)

様式2:「アブストラクト」

「活用の効果の比較する従来技術」

様式3:「比較対象とする従来技術」

様式4:「従来技術名」

「・」で整理し、簡潔に記述して下さい。

削孔が必要な工事

例)・道路工事  
・車線幅員工事  
・地滑り対策工事 などのように併記して下さい。

尚、ここで記述したものは、**様式3「使用可能な工事の種類」**に記述するものも**同一**とします。

Q、なぜ①～③に詳しい説明を記述してはいけないのか？

A、それにはこんな理由があるからです。

【例】

創立以来30年の歴史と経験から生まれた本技術は、1994年から何度かの改良を重ね、……

……  
……  
……  
……  
……

であり、様々な諸課題を解決すべく、また新たな土木工事の……

……  
……

という今までにない全く新しい工法である。  
**ただし、法面緑化には適用出来ない。**

法面緑化の技術を検索したいということでキーワードに「**法面緑化**」と入れたとします。

技術によっては、新技術名称からでは技術内容が連想出来ないもの(例えば人名に似せたり、当て字のような名称などもあります)があった場合、新技術情報を開くこととなります。

そこで、左記の例のような概要を読み進んでいったあげく、最後に検索対象は除外であるとの記述があると、NETIS自体の活用が敬遠されてしまいます。キーワード検索では適用外の技術でも、キーワードとしてヒットすれば検索されてしまいます。

技術情報提供者側も、NETIS利用者側からも効率よく検索し、活用出来るように、自分の探している技術か否かをすぐに判断出来るようにするために、①～③については箇条書きで簡潔に記述して頂いています。

もしそれが探している技術であれば、④・その他・追記・詳細 等で追記して頂く内容が長くても読み進めるはずで。

## 新規性及び期待される効果

### ①どこに新規性があるのか？(従来技術と比較して何を改善したのか？)

例 ・盛土材を××から〇〇に変えた。

(A)

(B)

・コンクリート製のプレキャスト板が、廃材を利用した再生木材からなる板になった。

(C)

(D)

・改良機の先端にリブを取り付けた。

(E)

このように、AをBに変えた。CがDになった。Eを追加した。Fを取り除いた等、物理的・理論的変更要因を箇条書きで簡潔に記述してください。

尚、このような表現が出来ない場合は、改善された新規性等技術の優位性や特徴を記述して頂いて構いません。

### ②期待される効果は？(新技術活用のメリットは？)

例 ・盛土材を〇〇に変えたことにより、地盤改良の必要性が無くなり、コストメリットが向上した。

(B)

具体的なメリット

・再生木材からなる板を使用することにより、環境負荷を軽減出来、かつコスト縮減が図られる。

(D)

具体的なメリット

・リブを取り付けたことにより、直進性が向上し、品質向上に繋がった。

(E)

具体的なメリット

このように、①の「・」に対して②の「・」を対応させてください。

例えば①ではAをBにしています。Bにしたことにより何かが起こっています。それがメリットとなり、②でBに変えたことにより〇〇が向上した等の効果が、箇条書きで簡潔に記述出来るようになります。

ここで〇〇が向上した等の効果は、様式3で実証・確認された結果として下さい。また、アブストラクトを記載する際、その構成材料となります。

尚、①と②が対応出来ない内容や、このような表現が出来ない場合は、効果やメリット等技術の優位性や特徴を記述して頂いて構いません。

### ③、その他、追記、詳細・・・等

開発、コンセプトに至った経緯や、メリットの詳細、説明の必要がある着眼点などは②までを書き終えてから、③、その他、追記、詳細・・・等の見出しを作成して頂き、そこに文字数の許す範囲で記述してください。

**※重要※**

**アブストラクトとは？**

アブストラクトとは、NETISで技術を検索した場合、新技術名称ではその技術の概要が把握出来ない場合があります。そのような時に、簡単な技術概要を新技術名称の下に表示させるために、記述して頂いています。

概要(アブストラクト) ※検索結果に表示する技術の概念です(全角127文字)

本技術は〇〇〇〇工法で、従来は△△工法で対応していた。本技術の活用によりコスト縮減が図られ、品質の向上が期待出来る。

概要:①何について何を  
する技術なのか? に対して  
記述した内容となります。

概要:②従来はどのような技  
術で対応していたのか? で  
記述した内容となります。

新規性及び期待される効果:②期  
待される効果は?(新技術活用の  
メリットは?)で記述した内容のメ  
リットの部分となります。

## 施工方法

- ①…
- ②…
- ③…

のように、工程を順序よく記述して頂くと見た人は分かり易いと思います。

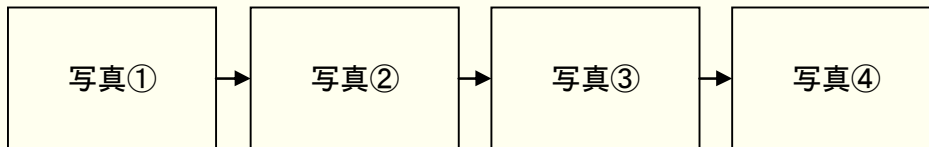
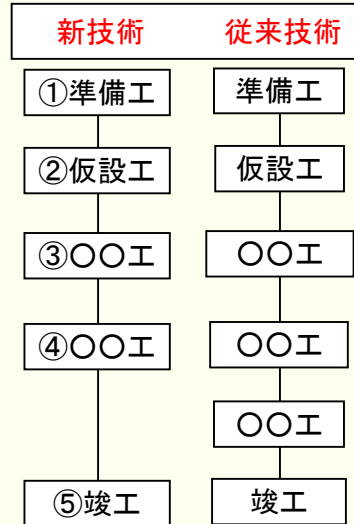
他に、写真やフロー図を貼り付けたりするとより分かり易くなります。フロー図の場合、従来技術のフロー図と対比させて表現するとさらにその違いがよく分かります。

また、実際の工程だけでなく、前後に必要な準備やフォロー等の記述もあれば、より分かり易く、かつ技術として成熟していることがよく分かります。なお、記述・フロー・写真の名称は統一して下さい。

### 例

- ①準備工  
××を均一に…して…。
- ②仮設工  
綱矢板により…する。
- ③〇〇工  
…を設置し…する。
- ④……
- ⑤……

新技術では〇〇工が省略出来る。  
また施工規模によっては〇〇も  
簡易な施工で済み、工期短縮が  
はかれる。



## 実験等実施状況

### 【例】

1. 試験実施日 : 平成〇〇年〇〇月〇〇日
2. 試験場所 : 〇〇〇〇試験センター
3. 目的 : 〇〇において安全であることを確認する。
4. 試験方法 : 〇〇〇〇試験により測定する。
5. 試験結果 : 荷重〇〇tまで加えた後、荷重を0に戻した時、残留変異は〇〇mmであった。
6. 考察 : 基準値が〇〇mm以内なので、合格であることを確認した。

試験施工や室内実験など、実施した内容について、その写真を貼付して記述してください。  
試験項目や、名称など具体的に、また結果も表などにまとめられていると分かり易いと思います。

※ 技術の効果的な事・最低限必要な事 等の成立性について記載してください。

※ 日付、場所、目的、実験方法、結果、考察を明確にしてください。

※ 開発年や施工実績の日付と整合させましょう。 実験等実施 → 開発 → 施工実績

ここで実施された試験項目については、適用範囲の④適用にあたり、関係する基準及びその引用元で記述して頂いた内容(引用元にある試験項目あるいは、確認する強度等)とリンクして頂くこととなります。

ここに記載した内容は、様式3で項目立てして、詳細に記載して下さい。

## 適用条件

- ①自然条件
- ②現場条件
- ③技術提供可能地域
- ④関係法令等

「適用条件」には、申請する新技術の施工、使用上の制約を記述してください。

- ①自然条件 自然条件に関する制約(気温や気象等)
- ②現場条件 作業スペースや支障物等の制約  
(作業スペース〇〇㎡、機械の大きさ〇〇m×〇〇m、施工場所等)
- ③技術提供可能地域

新技術を適用できる地域について、具体的な都道府県名等と簡単な理由を記述してください。  
制約がない場合は、「技術提供可能地域については制限なし」としてください。

例)プラント設置地区に限る(山梨県、静岡県、愛知県、千葉県(平成〇〇年〇月現在))  
九州地区限定(現在運搬可能地域)

- ④関係法令等 法令上厳守しなければならない条件  
※発行年・発行元も記述してください。  
※記載事項がない場合には、「特になし」と記述してください。  
※労働安全衛生法等は特に記述しなくても構いません。  
※基準書等は記述する必要はありません。

## 適用範囲

- ①適用可能な範囲
- ②特に効果の高い適用範囲
- ③適用できない範囲
- ④適用にあたり、関係する基準および引用元

「適用範囲」には、技術として成立するために最低限必要な基準や管理値・規格値及びその引用元を記述してください。

- ①適用可能な範囲 施工量・規模・地域等
- ②特に効果の高い適用範囲 ①の中で特に効果の高い条件を具体的に記述してください。  
なお、技術のアピールポイントと整合するようになしてください。
- ③適用できない範囲 適用できない理由を明確に記述してください。
- ④適用にあたり、関係する基準および引用元

土木共通仕様書やその他基準類等  
※発行年・発行元、項目、頁数も記述してください。  
※記載事項がない場合には、「特になし」と記述してください。  
※協会のマニュアル等は記述する必要はありません。  
例「〇〇〇基準」(〇〇〇協会 平成〇年度)

留意事項

- ①設計時
- ②施工時
- ③維持管理等
- ④その他

この欄の記述は重要です。設計、施工、維持管理、その他において、留意する点、つまり注意点などを記述してください。

申請者から見れば当たり前に見える内容でも、閲覧者にとっては「なるほど」となる内容もあります。出来ない事、無理な内容など当たり前障りない表現でごまかしたりせずに、はっきりと表記してください。その方が技術に対する信頼性があがるはずです。

実際に活用される際の施工現場や適用箇所は、様々な条件下にあり、全てに対して完璧であるということは、あり得ないと思います。即ち、多かれ少なかれ、問題や使い勝手の悪さなど、実施に係わる様々な現象が起こりえます。そこで、その問題等を現場での工夫で解決したり、新たな課題として捉え運用面・機能面それぞれの解決を図るために、開発者として思案されたことがあれば、まさにここで記述していただければ、これから活用を考えている方達に、大いに役に立つと思われまた、信頼性も向上するはずです。

こういった現場における問題のレアケース対応を怠らなかつた事が、技術としてノウハウとなります。逆に、「施工・使い方が悪いから」とか、「製品の販売だけなので分からない」とかというような対応をしてきた場合、ノウハウとしての蓄積は無くなります。

実績による経験上、同じ現象が起こってしまうその原因となる処置を予めさせないようする「回避策」や、起こってしまった場合の対処方法である「対応策」等の記載もお願いしたいと思ひます。

アブストラクト、概要：②で記述した表現に合わせて下さい。  
様式3、4の従来技術も同様です。

経済性と工程については、同程度であっても比較の根拠を記述して下さい。

活用の効果

比較する従来技術

△△工法

項目	活用の効果			比較の根拠
経済性	向上(%)	*同程度	低下(%)	〇〇の材料費は増加するが△△の施工性が向上し施工費が低減するので、結果的に同程度である。
工程	短縮(%)	*同程度	増加(%)	・・・工が増加する分、・・・工が不要となる。
品質	*向上	同程度	低下	〇〇よりも強度が増加し、耐久性も向上した。
安全性	向上	*同程度	低下	
施工性	向上	*同程度	低下	
周辺環境への影響	向上	*同程度	低下	
コストタイプ	発散型：C(+)型			

品質～周辺環境への影響までは、同程度の場合、比較の根拠は特に記述しなくても構いません。

※活用の効果については、キーワード、開発目標や様式3：④従来技術との比較(結果)と整合するようにして下さい。

上記の各項目の活用の効果は、様式3の評価項目と対応しています。

- ・経済性 → 経済性
- ・工程 → 施工性(中項目の合理化)
- ・品質 → 品質・出来形
- ・安全性 → 安全性
- ・施工性 → 施工性(合理化を除く)
- ・周辺環境への影響 → 周辺環境への影響

活用の効果の根拠

新技術・従来技術の内訳は出来るだけ一式での表現は避けてください。出来るだけ詳細に項目立てして頂き、個別の内容が分かるように(比較出来るように)作成して下さい。

**経済性・工程の内容が、0円や0日になっていないかを必ず確認して下さい。**



施工単価の記載内容

- ・申請する新技術の単価及び損料等のいずれかが分かるように記入して下さい。
- ・施工条件等により価格が変わる場合には、一般的な施工条件で、標準的な規模で施工した場合の施工条件及び単価等を記入して下さい。
- ・適用条件(適用年次、地域等による単価の変動があるもの)を記入して下さい。
- ・経済性でコスト縮減効果がある場合は、その効果が現れる適用範囲を記入して下さい。
- ・上記文章を補足する一覧表が作成できます。
- ・工程・単価の算出根拠資料を添付して下さい。
- ・登録する技術の区分を「材料・製品等」とした際も必ず施工費までを含めた比較を行って下さい。(材料単価のみの記述は不可とします。)

**施工単価**

文章 (半角カタカナ及び連続するスペースは入力できません。) 全角で 1000文字まで

施工条件

油圧式杭圧入引抜機による鋼矢板圧入10枚当りの単価である

- ・油圧式杭圧入引抜機による打込み
- ・施工量 鋼矢板〇型〇〇mを150枚打込み

算出条件

- 〇〇鋼矢板の施工費は、△△協会編『〇〇鋼矢板積算基準(暫定版)〇〇年度〇〇地区』により算出
- 〇〇鋼矢板の材料単価は、建設物価調査会編『建設物価△年△月号〇〇地区』により算出

登録技術の費用内訳書を、以下の表に記入してください。初期記入内容は入力参考例です。内容を確認後、表に入力してください。

表タイトル  見出し 列数

	A	B	C	D	E	F	G
1	名称	規格	単位	数量	単価	金額	備考
2	材料費	鋼矢板〇型 〇〇m	10	枚			
3	世話役		0.3	人			
4	特殊作業員		0.3	人			
5	とび工		0.6	人			
6	油圧式杭圧入引抜機運転		0.3	日			
7	ホイールクレーン賃料	排出ガス対策型 油圧式25t吊	0.3	日			

なし   
  標準歩掛   
  暫定歩掛   
  協会歩掛   
  自社歩掛

歩掛表

- ・該当するものを選んで下さい。
  - \* 標準歩掛とは、国土交通省土木工事標準積算基準書・市場単価であり、施工実態調査を元に、標準的な施工が行われた場合の労務、材料、機械等の規格や所要量を各々の工種毎に設定したもの。
  - \* 暫定歩掛とは、新技術活動支援施策で提供している歩掛。(公共工事の発注者の負担を軽減して新技術の採用促進を図るため、既に活用実績が多い新技術や活用ニーズの高い新技術について、積算資料等の技術情報を提供)
- ・協会歩掛、自社歩掛の場合は、歩掛が分かる資料を添付して下さい。
  - なお、資料の提出が無い場合又は、根拠が明確でない資料の場合は、“なし”になります。